

昭和53年9月15日 第4号

兵庫県立川西緑台高等学校

同窓会 緑友会発行

〒666-01 川西市向陽台1丁目8



緑友会報

卒業証書

上記の者は本校の
課程を卒業したこと
を証する

昭和49年3月1日

兵庫県立川西緑台高等学校

はばたけ緑台

「十年ひと昔といえば、
十年前は私たちにとってはまだ
まだ過去にならきっていない。
生まれてから十歳になるまでの
長かった感じに比べると、この
十年はほんとうにアツという間
に過ぎてしまった。私事で恐縮
だが、私は緑台高校の三代目に
あたる。何かにつけて“三代目
はアカン”と言われ続けた。

そしてあることに「おとな
しきり」と言われた。三期生
なので一期から五期生のことま
ではなんとかわかり、六期生は
クラブのつき合いなしですか
に知ることができ、七期生とな
ると全く知らない。年々皆よく
勉強をし、クラブをあまりしな
くなつたと聞くが、ほんとうの
ところは知らない。

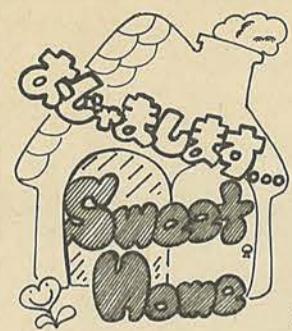
創立10周年記念号

緑台といふと、なんとなく土
の匂いを思いながらのぼとう
いうことだろうか。一期生の野
原正美という人がいた。皆にマ
ーちゃんなど呼ばれていて生徒会
の役員をしたり、学校新聞を作
ったりしていた。ゲタをはき、
帽子を頭の丸みがわかるほど柔
くкиつちりがあり、おかさん
のお古という黒いガマ口を持つ
る。

二期生に木根淵至という人が
いた。バイタリティーな生徒会
長として知っている人も多いと
思つ。

この人がよく土を耕した。校
門からロータリーへ行く坂の左
側自転車置場の前あたりを一生懸
命に耕し、よく水をまいていた。
むろん一人だけではなく何人かの
人が手伝っていた。私たち三期
生になるとそんなことはなかっ
たが、一期生の人たちはよく土
を運んだり、植木をうえたりし
たという。

緑台といいながら、校庭は沙
漠の如くであった。冬の日、雲
が低くおりた時などは、まさに
寒風吹きすさぶ荒野の中に、荒
けずりの校舎だけがボツンと建
っていた。植えたての木々が、
ヒヨロヒヨロと心もとなくたっ
ていた。そんな嚴しさの中で、
育つていった木。今十年たって
成長したのは木だけではない
ことを……。



同窓生カツブルに 「赤ちゃん誕生

この夏ノ月十三日 集まつた
OBは男女合わせて二十六名。
それに現役のクラブ員が加わつ

クラブ OB会

春と夏にOB集合

ル飲んでの楽しいひとときを過ごしました。むんこちらの方は現役の方たちにはご迷惑いたしましたので、指導部の先生方はご安心を。

についてお知らせします。
五十三年度理事役員

算案

茶, お菓子)
回)
報)
件費)
ッカー)

300,000
150,000
.000,000
50,000
20,000
.520,000

卒業してしまって、高校時代の友人と会う機会も滅多にありません。たまたま電車でいっしょになつたりするくらい。でもクラブ活動でのつながりは長く続いているようです。今回は軟式テニス部のOB会にスポットをあててみました。

われた横山先生にも来ていただいたきました。今年はOBの岸本さん夫婦に赤ちゃんが生まれたので特にたくさん集まつてもらうようにしました。

試合が終わると少し半べこ
うのが決まりのコース。今年
も少し半で同じ金の飯を食べ
…ではなくて、同じビンのビ

らせ版

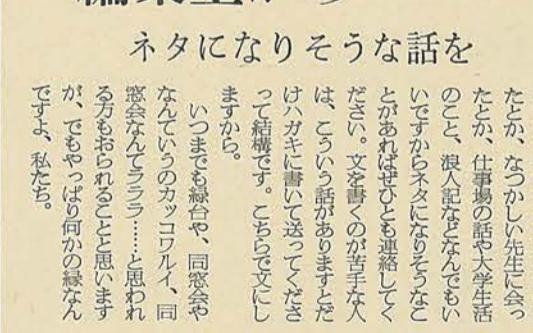
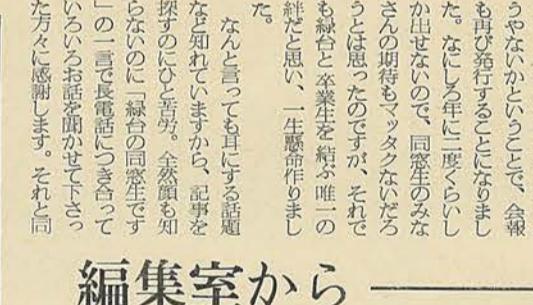
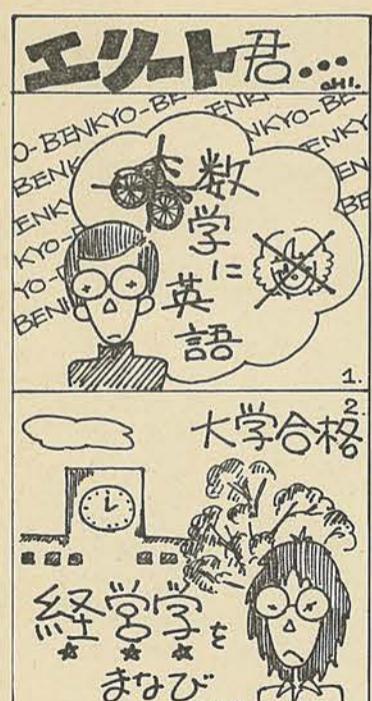
このお知らせの
コーナーを縁石
会のみなさんに開
放しますので、同
窓会の案内や、其
一のメンバー

書記　勝田中島容子純江
会計監査　大下吉羅
稲葉仲岡博明
鈴木一明

53年度 予算案

会費	50,000 (お茶、お菓子)
会費	30,000 (3回)
修費	0
費	100,000 (会報)
言費	120,000
務費	30,000 (人件費)
導入費	20,000 (ロッカー)
手費	0
費	30,000
品料	0
工金	0
諸費	100,000
上	180,000

会計			
名簿	發行費	300,000	
通信	費	150,000	
念事	業費	1,000,000	
予事	備務費	50,000	
総	計	20,000	
		1,520,000	



マンガ・カットは
空撮の四重奏公演

僕らがくる
野球をめざして、今のところ
コーチはおいていません。スペ
ーツの秋です。縁友会の皆さん
参加してみませんか。